

## 行政視察報告書

報告者 倉掛 賢裕

【視察期間】 令和5年6月21日～6月22日

【視察日】 令和5年6月21日

【視察先】 大阪府大東市

【調査事項】 アーバンスポーツ施設について

【調査概要及び所感】

大東市にある深北緑地は、洪水調整機能を備えた多目的遊水池公園「寝屋川治水緑地」として整備され、スケートボードやBMX、3×3などのアーバンスポーツ施設としても利用されている。

元々、遊水池として整備されていた公園を有効活用して、軟式野球場やテニスコートの他、ドッグランとしても利用できるように整備されており、スケートボードエリアの波の広場は堤防の一部を利用したもの、BMXエリアの自由広場はBMX関連団体のボランティアで地面を整備し、維持・管理を行っている。3×3は3面のコート。

視察時は平日にも関わらず、多くの児童生徒がBMXやスケートボードを楽しんでおり、令和4年度のそれぞれの利用者数は波の広場13,305人、バスケット広場4,492人、自由広場3,058人となっている。

アーバンスポーツの施設はいずれも無料で利用できるが、特段運営管理を行っていないため、スケートボードの利用者のヘルメット着用率が低いことが課題。管理事務所にてスケートボードやヘルメット、プロテクターを有料で貸し出してはいるが、無料施設の維持・管理・運営体制の整理が必要だと感じた。

【視察日】 令和5年6月21日

【視察先】 大阪府寝屋川市

【調査事項】 アーバンスポーツ施設について

【調査概要及び所感】

寝屋川市にある寝屋川公園は、野球場、陸上競技場、軟式・硬式テニスコート、ソフトボール広場、3×3などの総合運動施設としても利用されている。

主に3×3のエリアを視察。低年齢の子を対象にしたアスファルトエリア、大人などが本格的にプレーできるフルコートエリア、3×3などを対象にしたストリートバスケット的なハーフコートエリアがあり、様々な年齢や人数で利用できるスタイルとなっている。

多目的広場内にあり、無料で利用できる施設となっており、バスケットボールの施設としては充実した環境となっている印象を受けた。寝屋川公園という府立の総合運動公園的な施設内にあることもあり、騒音の問題が発生しないため、多くのコートの設置が可能な

環境となっているが、大分市の人口や交通事情を勘案するとこのような場所はかなり限定されてくるのではないかと思われる。

【視察日】 令和5年6月22日  
【視察先】 大阪府堺市  
【調査事項】 アーバンスポーツ施設について  
【調査概要及び所感】

堺市原池公園は、園内に原池を持ち、体育館、ナイター設備を持つ公式野球場、グラウンドゴルフなどが楽しめ遊具で遊べる芝生エリア、バーベキューエリア、有料のスケートボードパークが設置された総合公園。美津濃株式会社を代表とするばらいけNEXT 創発パートナーズが指定管理者となり、運営されている。

スケートボードパークが設置されるエリアは阪和自動車道の高架下にあたり、住宅地からは離れたところにある。利用は有料で、営業時間は午前9時から午後9時までとなっており、約1,080㎡のパークスタイルゾーンと約2,500㎡のストリートスタイルゾーンの2つを併せ持つ。それぞれ外周は2メートル強のフェンスで囲われており、利用料を払えば両方を行き来できる。

また、管理棟ではスケートボードに関係するグッズが販売されており、有料のスクールも開催され、非常に好評だとのことであった。

管理者から、スクールでの収入が運営の肝になると伺った。また、堺市では他にスケートボードを行える施設がないということもあり、需要に対し供給がうまくいっているケースなのだろうと感じた。

施設面では、その地域での人口規模やニーズをしっかりと把握すること、また、ストリート的な利用施設とするのか、世界規模の大会を行う競技施設を必要とするのかなど、明確な使用目的を加味して整備計画を立てることが重要だと思う。私見だが、本市の人口規模等を鑑みると少なくとも市がパークスタイルの施設整備を行うにはあまりに費用対効果が低いと思われる。メインはストリートスタイルでの施設整備を行い、パークの練習等はそれ相当のセクションをストリートパークに設置することが望ましいのではないかとと思う。

【視察日】 令和5年6月22日  
【視察先】 大阪府松原市  
【調査事項】 アーバンスポーツ施設について  
【調査概要及び所感】

松原市では、阪神高速大和川線の高架下を利用し、フットサルコートとスケートパークを併せ持つスポーツパークまつばらを整備、ミズノグループが指定管理者となり平成27年から併用している。

フットサルコートは約790㎡～960㎡のコートが3面、スケートパークは約800㎡に8基のセクションを置いたものと、昨年整備された約350㎡に2基のセクションを置いた上級者エリアがある。利用は有料で、営業時間は午前9時から午後11時、開設時に近隣住宅から苦情があったためスケートパークは午後10時までとなっている。外周は高いフェンスで囲われており、利用料を払えば両方を行き来できる。施設には50台のコインパーキングが併設され、こちらも大切な収入源になっている。その他にも管理棟での物販、フットサル・スケートボードともに有料のスクールが開催されていた。

まず、大変コンパクトに施設がまとまっている印象を受けた。先に視察を行った3つの施設は広い面積を持つ総合運動公園といったイメージだったが、こちらはフットサルとスケートボードに特化した施設。運営効率が高いものを集約した施設となっていた。

収入のメインはフットサルで、約16.66k㎡の市域に約12万人の人口を持つ高人口密度の都市でありながら、昨年開設した屋内・屋外スケボーパーク「おくさま印スケボーパーク」とこちらの施設以外ではスケートボードができないことも、利用ニーズが高い要因となっている。

設備面ではパークスタイルのH1800ランプも設置されており、ストリートスタイルからパークスタイル、初心者から上級者まで利用できるようになっていた。安全面等からもレベルごとにエリアを分けていくことが課題となっていき、上級者エリアの増設と新しいスケボーパークの整備につながっていったと聞き、改めて、収入を含めた運営面での工夫とそのエビデンスの確立が問われるのだろうと実感した。